

## 「イノベーション探究Ⅰ」～地域再発見プログラム～第6回

### 1. 実施日

令和3年6月26日（土）1・2限

### 2. 場所

1棟多目的室

### 3. 対象

グローバル科1年生（6・7組）

### 4. 講師

鳥羽高等学校 教諭 6組 山中 脩平 中村 啓介  
7組 金本 瑞穂 矢野 和久

TA：本校グローバル科卒業生の大学生6名

### 5. 内容

前回作成のマンドラートを元に、チームで協働してリサーチクエスチョンを立てる

#### (1) 事前準備

本日 TA として入ってもらう、本校グローバル科卒業生6名に前回までの流れと以下の二点を説明・依頼する。

- ① 切り口の作り方として5W1H1Dの視点を伝えて欲しい。
- ② テーマを絞っていく過程をアドバイスして欲しい。

#### (2) 説明と振り返り

- ① 教員が本時の流れを説明する。
- ② 本日のTAであるグローバル科卒業生6名が自己紹介をする。
- ③ チームで協働しながら前回作成のマンドラートを見直し、TAのアドバイスも受けながら不十分な部分を補完する。必要ならばスマホも使用する。

#### (3) リサーチクエスチョンを立てる

- ① 研究計画書を配布し説明する。
- ② 扱ってみたい課題すなわちチームの研究テーマを絞る。
- ③ 研究の動機・課題の背景を、話し合いによって明らかにし、文章または箇条書きにする。
- ④ 調査すべき項目すなわちリサーチクエスチョンを協働して考える。

#### (4) 全体の講評と個別のアドバイス

- ① 教員およびTAが、気づいたことを全体の場で講評する。
- ② 「テーマ」から「リサーチクエスチョン」への運び方に留意し、個々のチームについてアドバイスを重ねていく。
- ③ リサーチクエスチョンが完成したチームからTAと教員が見て修正のためのアドバイスをする。

(5) まとめと次回以降の予告

- ① 次回以降、研究計画書の作成を続け、リサーチクエスチョンを立てつつ、探究内容や調査方法を考える。その後、構想発表会として3年グローバル科の生徒からアドバイスを受ける。

6. 学び

本校卒業生でもあるTAの協力を得ながら、チームで協働しながらテーマを立て、リサーチクエスチョンを考えていく方法を学ぶ。

7. 次回への課題

事後にTAから以下のような指摘と提案を受けた。

(1) 指摘

- ① 指示が腑に落ちていない生徒がいた。
- ② 「京の智」に結びつかないマンダラートを行っている生徒が多い。
- ③ 「観光」など、テーマが抽象的で、「調べ学習」で終わりそうな雰囲気もある。
- ④ 推進力のある生徒がいるグループと、そうでないグループの温度差が大きい。
- ⑤ 大人しすぎて反応が乏しい。
- ⑥ 「調べやすさ」を重視して、関心のあるテーマを探究できていないチームもある。

(2) 提案

- ① 内容が高度で、1年生なのに求めすぎている気がする。3年が本番で、1・2年は基礎というイメージ。
- ② ある程度ルールを敷いてあげる方が良いかもしれない。
- ③ ゼミのような感じで、チームの担当教員がいた方が捗ると思う。
- ④ 言葉の定義をもっとしっかりした方が良い。

以上のことから、これまでのイノベーション探究Ⅰの授業で行ってきた、プチ探究や2回の大学教員によるワークショップによっても、生徒の探究活動に対する理解や見通しが十分ではなかった、ということが推察される。今後改めて生徒達に探究活動の意義・目的をはっきり理解させ、軌道修正を図りながら進めていく必要がある。

8. 授業の振り返り

2時間という限られた時間の中、4人の教員だけで14班を見ていくのは難しいが、6名のTAが入ったことで、細かい部分にまでアドバイスをすることができた。また、年齢の近い本校卒業生と言うことで、生徒達も打ち解けながらいろいろなアドバイスを受けることが出来た。